

## 優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業 事後評価結果

研究開発課題名	「日本の医療機器を世界に！」を実現する共創型グローバルハブ拠点
研究開発代表機関	国立大学法人神戸大学
研究開発代表者	村垣 善浩

### 【計画実施概要】

#### ■ 当初の計画

臨床現場視点を反映した開発環境整備を継続し、全学横断組織「医療機器社会実装支援ユニット」(以下、社会実装ユニット)の伴走支援による共創体制を拠点の最大の特徴として強固にする。産官学様々なステークホルダーと協働して革新的医療機器を創出し、国際展開につなげる共創型グローバルハブの確立を目指す。

#### ■ 成果

医療機器開発の専門家集団の社会実装ユニットが、研究者や企業と共に臨床現場でニーズを探索・検証し、常に出口を見据えた開発を推進する体制を本事業で強化した。また分担機関の神戸医療産業都市推進機構、兵庫県立こども病院や神戸市立医療センター中央市民病院と協働し、医療機器開発の専用施設として開設したメドテックイノベーションセンター(以下、MIC)及び隣接する分院の国際がん医療・研究センター(以下、ICCRC)を核とした地域連携拠点体制も整備した。さらに重要な取組みとして、米国進出を意識し、社会実装ユニットがスタートアップと国際展開支援の基盤づくりを推進した。

#### ■ 課題

医療機器の国際展開に向けた海外ネットワークの強化と国際展開支援の質の向上が今後の課題である。

#### ■ 今後の方針

社会実装ユニットが先導して MIC や ICCRC を産官学連携拠点とし、国際展開支援に資する取り組みを継続・強化する。

### 【評価コメント】

医療機器社会実装支援ユニットがニーズ探索から国際展開まで一貫して支援する体制を整備し、具体的な成果が出ていることが評価された。また、出口戦略が難しい小児・希少・難治疾患領への支援に取り組まれていること、治療上のアンメットニーズを満たす医療機器の創出への支援は、アカデミア拠点として重要な活動であると評価された。

以上